令和7年 労働災害発生状況一覧表（林業）

番号	作業種別	原因別	場所	発生日	時間	年代	経験年数	災害発生状況	傷病の程度	発生原因	再発防止策
1	玉切	飛来物・落下物	山林	R7.1.24	8:50	40	1年～10年未満	チェーンソーで玉切り作業をしようとした作業員Aの斜め下方で、被害者Bが集材作業を行っていた。このため、作業員Aは被害者Bに退避を指示し、退避確認後に玉切り作業を行った。しかし、被害者Bは、玉切りした丸太が下方に転がったことから、その丸太から他の立木を守ろうとして、その丸太に接触・負傷した。	右脚脛骨高原骨折 [3ヶ月]	・退避を確認したとはいえ、上下作業になってしまった。 ・経験が浅い作業員Bへの安全指示の不徹底（念押し不足）。	・作業計画を作業員全員で共有する。 ・安全確認の徹底する。
2	かかり木	飛来物・落下物	山林	R7.1.27	10:00	20	1年～10年未満	被害者が、チェーンソーで枯木を伐採したところかかり木となったため、手で押したところ、自身の方向に倒れてきた。避難行動をとったが間に合わず負傷した。	背中打撲 [14日]	・自己判断による誤った対応 ・退避場所の確保不足	・牽引具による適切なかかり木処理の徹底する。 ・避難場所を確保するとともに、避難の支障となる物はあらかじめ除去する。
3	集材	架線	山林	R7.2.20	10:05	20	1年～10年未満	(被害者に記憶がないため現場状況からの推測) 作業員Aは、ウインチ付重機の操縦をしていたが、繊維ロープの張力が外れたため、無線で被害者Bに呼びかけたが応答がなかったため確認したところ、切れた繊維ロープが首に巻き付いた状態で倒れている被害者Bを発見した。被害者Bは、荷掛け作業をしていたが集材木が切株に引っ掛かったため集材木に接近。そのタイミングで繊維ロープの破断し、首に線維ロープが巻き付いたと推測される。	頭頸部外傷 [2日]	・張力がある状態の繊維ロープに近づいてしまった。	・張力のかかった状態のロープには近づかない。 ・使用する繊維ロープの耐久性を確認し、定期的に交換する。 ・繊維ロープの特性、適切な使用方法、危険性について教育を実施する。
4	かかり木	飛来物・落下物	山林	R7.2.25	12:15	70	20年～30年未満	チェーンソーで枯木を伐採したところ、かかり木となった。かかり木処理をする為周囲の片づけをしていたところ、かかり木が外れ接触・負傷した。	頭蓋部打撲 [2週間]	・かかり木が動く可能性があるのに、安易に近づいてしまった。	・かかっている木は、いつ落下するかわからないので、その下や周辺での作業を行わない。 ・事前に作業エリアを整理しておく。
5	移動	転倒	山林	R7.4.8	9:45	50	10年～20年未満	チェーンソーでの伐採作業中に、樹幹が大きく（3m程度）裂けあがったため退避行動をとった。その際にバランスを崩し左手を地面に強打した。	左手の骨折 [2～3ヶ月間]	・予想外の裂けあがりが生じたため、慌てた避難行動になった。	・伐採作業に先立ち各方面から十分に観察・検討する。 ・伐採による影響が分からない場合には、他の作業員にも相談する。 ・樹冠や樹幹の動きを確認しながら、伐採作業を行う。
6	玉切	跳ね返り	山林	R7.5.2	9:00	40	10年～20年未満	チェーンソーで玉切り作業を行っていたところ、材木の跳ね返りで体が押され腰を負傷。玉切りしていた木は、曲がっておりテンションが掛かった状態であった。	腰椎骨折	・テンションが掛かった木を、長材で処理しようとしたため、跳ね上がりが予想の規模以上に大きかった。 ・作業開始直後だったため、体が固かった。	・重機を利用して負荷が掛からないように玉切りを行う。 ・木の状況を観察し負荷を取り除いてから作業を行う。 ・作業開始前には体操やストレッチを十分に行う。
7	集材	その他	山林	R7.5.22	12:00	30	1年未満	昼休みに、体がだるく感じられたため、体調の異変を班員に伝えて、病院に連れて行ってもらい熱中症と診断された。初夏で、体が、暑さに十分に慣れていない状態であった。	休業 [1日]	・熱中症対策が出来ていなかった。 ・熱中症の指導不足であった。	・熱中症に関する教育を徹底する。 ・熱中症対策資材（スポーツ飲料や塩タブレット、吸水性のあるTシャツ）の支給時期は、気象状況を踏まえて行う。
8	伐採	飛来物・落下物	山林	R7.6.7	8:30	70	50年～60年未満	チェーンソーで栗の木を伐採した際、伐採対象とは別の木（檜）も倒れ、被害者に接触した。接触した檜の木には葉が付いていたが、被害者の位置からは見えない面に腐朽（規模：高さ約2m）があった。このことから、被害者は、倒れた檜の木を健全な状態と判断した可能性がある。なお、檜の木は根元から倒れていたことから、伐採した栗の木の枝が檜の木に引っかかり、その影響で倒れたものと推察される。	死亡	・周辺木の異常を発見できなかった。 ・枝のかかりを予測できなかった。	・伐採前に、作業範囲内の見回りをを行う。
9	伐採	飛来物・落下物	山林	R7.6.12	13:15	60	20年～30年未満	高所作業車を使用し、地上約3mの高さでトップハンドルチェーンソーによる枝落とし作業を行っていた。使用していたチェーンソーは、本来、両手で確実に保持して操作することが求められる機種であったが、枝がチェーンソーの振動で揺られて伐採作業が困難であったこと、また伐採枝を自然落下させず安全な位置に誘導する必要があったため、やむを得ず、利き手ではない左手のみでチェーンソーを操作し、右手で枝を保持しながら作業を行った。その際、枝元が跳ね返り、その勢いでチェーンソーが右前腕部に接触し、裂傷を負った。	右前腕部裂傷 [4日以上]	チェーンソーの基本姿勢が保てない状況で作業を行った。	・チェーンソー作業における片手操作の禁止。 ・チェーンソー作業時の基本姿勢の徹底。 ・片手作業が必要な場面では手ノコを使用する。